

バドミントンにおけるショットの有効性と選手の心理的特徴

Effect of shot and psychological feature of players in badminton game

1K05A157

永野 陽子

指導教員

主査 関一誠先生

副査 渡辺英次先生

1. 目的

ラリーポイント制導入により試合時間の短縮、身体面での負担軽減、力の差のある選手でも競る展開になるなどといった予測とは別に、選手にはミスをするることによってすぐ相手のポイントになってしまうためショットの精度、集中力の持続、メンタル面の強さがより要求されるようになった。実際に試合をしたり、試合を見たりしていても、やはり攻め切ることでできる選手の方が確実に点数へつながっている、

スマッシュやドロップで相手を崩して攻めている方がチャンスは多いと感じる。メンタル面においても攻撃を基本としている選手は受身の態勢が多い選手よりも積極的であり強気でいられるのではないだろうか。そういった考えから攻撃的なショット、受身的なショットどちらが実際の試合で有効であるかを明確にし、それぞれの選手の心理的特徴を分析することを目的とする。

2. 調査方法

被験者の対象は全日本学生選手権大会の、シングルス個人戦ベスト8(総合5位)以上の選手、関東大学1部リーグ戦のシングルスに出場した選手を対象とした。今回はその中の、大学生男子2名女子2名の計6名の調査を行った。それぞれの選手の試合を収録してあるDVD、ビデオ、DVを収集し、ビデオ分析を行う。

ラリー毎の攻撃的なショット数、受身的なショット数を数え、エースを取ったショットを記入する。それぞれの打数の合計を示し、点数の取り方、勝敗を明らかにして男女の比較と年代の比較を行う。

選手のメンタルの分析は、試合前に質問紙DIPCA(心理的競技能力診断検査)を用いて調査した。DIPCAは、アスリート用の心理検査であり試合場面で実力発揮をするために必要な能力を測定するものである。

3. 結果・考察

男子シングルス2試合は攻撃的ショットのほう有利であり、とくに2試合とも競っているときこそ攻撃しているほうが点数を重ねていくことが多かった。メンタル面では、両選手とも相手に向かっていく、

勝ちたいというものが表れていた。それはレシーブの状態からでも攻めに転じていくプレースタイルにも影響していた。また自己コントロール能力にも優れており、試合中も緊張で力を発揮できないといったことはないと考えられる。ただ両選手ともほかの項目と比べて作戦能力は若干劣っていた。試合中でのゲームの支配力が今回の試合では低かったということとなった。

女子シングルスの場合、男子のように決め球がなくどうしてもラリーが続いてしまう。そのため、攻撃的ショットが多くても守れないと結局決められてしまい不利な状況になってしまいがちである。しっかりとラリーを続けることが出来て、そのうえで攻撃が出来る形が一番有利だということがわかった。4人の、心理的特徴を見てみると、共通していえることはリラックス能力が他の項目に比べると少し低いことが分かる。どの選手も、競ったところで抜け出すことや、点差が離れていても追いつく場面がみられた。

4. 結論

男子シングルスは、スピードがあって決め球を持っている分、攻撃的なショットが有利であることが分かった。すべて攻撃ではなくても、相手に打たせない、上げさせることが重要であるとわかった。女子シングルスは、攻撃が有利という結果は得られなかった。攻められてもしっかりラリーをすることが重要という結果になった。それにはフットワーク

や、パワーも必要になりトレーニングやフットワークの練習も重要だということがわかった。

また、メンタル面と攻撃、受身との関係を見ると、ショット回数と有利、不利の状況や勝率との関係性は低いものであった。メンタルというのは、繰り出されるショットの種類ではなく、そのゲームの流れや、相手との駆け引き、勝負どころで強い影響があることがわかった。